

3) プログラム概要と発表者等氏名 (敬称略) :

オープニング：アカペラサークル Premier

基調講演：伊藤 康宏「音楽する脳と身体」

対談：伊藤 康宏 × 田中 昌司「音楽する脳と身体」 進行：水戸 博道

サロン：この時間帯はすべて「サロン」となります。サロンでは専門や関心を同じくする会員が集まり、共通の話題・テーマについて話し合います。当日一般会員、地域の音楽家も交えてサロンらしいディスカッションが行われます。詳細は『大会要項』でお知らせします。

A ピアノのサロン B 管弦打楽器のサロン C 作曲のサロン D 指揮のサロン
E 声のサロン F ソルフェージュのサロン G 日本音楽のサロン H 音楽表現と社会のサロン

研究発表等はすべて6月16日(日)に行います。分科会時間帯は以下の通りです。

時間枠	司会者	発表種	発表者	発表題目
A I ①	矢内 淑子	PP	佐野 晴美	日本歌曲の新しい視座—京言葉による歌曲の演奏・表現についての—考察—ジャズピアノにのせて—
A I ②		PP	渡部 成哉	シューマンの暗号—『女の愛と生涯』をめぐって—
B I ①	井上 朋子	PP	中畑 淳	器楽アンサンブルにおけるピアノパートの研究—演奏表現の課題と解決についての考察— (仮)
B I ②		PP	後藤 友香理	ピアノ・レッスンに関する質的研究—ゴールドベルク山根美代子(1939-2006)の指導言語に着目して—
C I ①	高橋 範行	CS	伊藤 康宏・武本 京子	「イメージ奏法」による音楽と映像が人の生理的反応に及ぼす影響(第2報)
C I ②		PP	山崎 英明	発声におけるピッチ制御の学習機構
D I ①	加藤富美子	WS	奥 忍	DVDによる能の授業に関する実践的研究
D I ②		PP	新保 江美	よこ笛って難しい?—教育楽器としての「ファイフ」の活用法について—
E I ①	板野 晴子	PP	岡野 真裕	ホルン演奏における顔面・頸部の筋活動—熟達者と中級者の比較(ケーススタディ)—
E I ②		PP	仲 万美子	日本近代音楽史における荻野綾子のまなびと諸活動の意義(仮)
F I ①	寺内 大輔	PP	吉永 誠吾	パガニーニ：24のキャプリースの演奏法
F I ②		WS	河本 洋一	ヒューマンビートボックス初級講座
G I ①	浦 雄一	PP	藤原 嘉文	音楽の即興表現を考える(8)—Beethoven時代の実践とその応用の可能—
G I ②		PP	中村 隆夫	「長調は明るく短調は暗い」という誤謬
A II ①	兼重 直文	PP	岡田 敦子	ショパンの演奏法を探る—使用楽器とピアノ書法
A II ②		PP	澤田 まゆみ	フリードヘルム・デュールの世界—《パウル・ツェラーンによる3つのバラード》(1996)を中心に—
B II αβ	石川眞佐江	WS	石場 惇史	音楽表現に連動する身体表現について
C II	学会企画統一テーマパネルディスカッション「音楽表現の伝統と伝承⑦—リズムとリズム感をめぐって			
	小西 潤子・岡田加津子・村尾 忠廣			
D II ①	斎藤 武	PP	木村 貴紀	演奏に於ける視座と音楽批評によるその位置づけ(仮)
D II ②		PP	鷲野 彰子	演奏の転換点—近代的ピアノリズムの出現—
E II ①	久次米祐江	PP	西田 紘子	弦楽四重奏団リハーサルにおける音楽理論・分析的思考と演奏実践の関係
E II ②		PP	鈴木 亜矢子	西村朗の《萩原朔太郎の詩による二つの歌曲》(1997、2004)—山田耕筰のアクセント理論を起点とした分析的研究—

F II①	PP	鶴澤 友球	自主企画【鶴澤友球 浄瑠璃おうちライブ】の成果と課題その2 —来場者へのアンケート調査から—
F II②	木下 千代	PP 熊谷 綾子	東くめの功績と《幼稚園唱歌》—なぜ〈お正月〉は歌い継がれてきたのか
G II①	田島 孝一	pp 甲斐 万里子	ピアノ演奏における自動化の意味と役割
G II②		PP 田中 昌司	オペラを観る、アリアを聴く、歌う、演奏をイメージする時の声楽家の脳波
特別枠	市橋 奈々	DM 武本 京子、神谷 舞、佐野美咲	「イメージ奏法」による音楽の映像化の理論と実践
A III①	長岡 功	PP 横山 芙由美	ベートーヴェンのピアノソナタに見られる抒情性についての考察②
A III②		PP 深井 尚子	シャンドールの自由落下の観点から見たベートーヴェンのピアノソナタ 作品 57
B III α	大竹 紀子	PP 安田 香	ベルクの《3つのオーケストラ曲》第1曲の音響設計とモチーフ操作 —シェーンベルクとドビュッシーとの比較—
B III β		PP 阿部 亮太郎	1950年代生まれの日本の作曲家の立ち位置 —作曲家山田泉の作品と作風—
B III γ		PP 松川 亜矢	G. マルトウッチ 《追憶の歌》についての一考察
C III α		PP 石原 慎司	世界の最先端にあった戦前日本の指揮法の受容と研究 —指揮図形に着目して—
C III β	樫下 達也	PP 飯村 諭吉	昭和初期のアマチュアバンドにおける小太鼓の練習法に関する教材史研究
C III γ		PP 鈴木 慎一郎	新民謡《吉岡小唄》と吉岡温泉
D III α	枝村 美夏	PP 笹野 恵理子	学校音楽のカリキュラム経験
D III β		PP 久保田 葉子	地域連携による児童の音楽的表現力の育成
D III γ		PP 田中 幹子	保育者の音楽表現に関わる一考察（仮）
E III α	荒川 恵子	CS 疇地 希美・嶋田ひろみ・山本八千代・吉村 雅美	絵本を活用した音楽会の実践報告—モデルタイプの構築を目指して—
E III β		PP 小島 千か	色と音を関連させた音楽づくり
E III γ		CS 佐野 仁美・岡林 典子・小畑 郁男	旋律づくりの指導の可能性 —小学校低学年における実践から—
G III α	多田 純一	PP 三島 郁	H. リーマンの楽譜「校訂」の方法
G III β		PP 中 磯子	音楽を伴うアプローチにより行動が変容した発達障がいをもつ 幼児たちの事例
G III γ		PP 宮田 知絵	歌における主題や語句、楽曲の背景理解を深めるための手法と視線
A IV①	石井 玲子	PP 末永 雅子	C.Ph.E. バッハのフライエ・ファンタジーの研究
A IV②		DM 榊原 明子	Reverberation—梵鐘とピアノの響演—
B IV α β	上野 正人	DM 初山 陽子	ヘンデル《メサイア》の作曲当時のディクシオンによる演奏（抜粋）
C IV①	杉山 雄一	PP 尾見 敦子	コダーイ・メソッドによるヴァイオリン教授法とその教師養成 —フィンランドの Colourstrings と Minifiddlers の現地調査をとおして—
C IV②		PP 小島 エマ	ミュージック・ラーニング・セオリーに基づく乳幼児音楽アクティビティ 研究—実践協力者へのヒアリングから—
D IV①	檜垣 智也	PP 伊藤 憲孝	ジョン・ケージのプリパレーション—音高・素材・設置距離に着目して—
D IV②		PP 曾田 裕司	ジョン・ケージにおける自由とはいかなるものか—鈴木大拙の見地から—
E IV①	徳永 崇	PP 安積 京子	加速する少子化社会中国、他方拡大一途の音楽教育と音楽産業
E IV②		PP 清水 稔	自己の因果律に囚われない創造の契機としての図形楽譜の有効性
G IV①	渡会 純一	PP 永岡 都	教員・保育士養成におけるバイカルチャーの音楽教育プログラム —お囃子、ガムラン、室内楽の旋律認知に着目して—
G IV γ		PP 櫻井 知子	『コドモノクニ』の童謡に見られる歌詞について

